

ひだご坊真宗教化センターだより 2020年11月号

発行日:2020(令和2)年10月28日 第4号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ takayama@higashihonganji.or.jp

「らしさ」と「つながり」のある教化

商品開発は『何をするか』を決めるのと同じくらい、『何をしないか』を判断するのが重要です。

新聞の一コーナーに掲載されたこの文章が目にとまりました。「何をして、何をしないのか」、そのタイトルは商品開発のみならず、教化事業の検討にもピッタリあてはまる言葉ではないでしょうか。

「何をするか」は比較的意見が出やすいのですが、「何をしないか」の判断は商品開発のように利益や数値で割り切れないため決断が難しく、ずるずると継続しマンネリ化・形骸化してしまう傾向が見られます。あえて「しない」ことで「すべき」ことが見えてくることもあるでしょう。

そこで高山地区(以下高山)において「何をしないか」の判断基準を、「岐阜地区(以下岐阜)と同じ事業はしない」としてはどうでしょうか。自分ではしないが岐阜の事業を利用(共有)していく。「人(他人)のファンドシで相撲をとる」とのことわざがありますが、岐阜と高山はもはや他人ではありませんので遠慮なく利用し、限られた予算と人員を有効活用していく必要があります。

一例として、宗門内外の名だたる方々が講師に名を連ねる岐阜の仏教公開講座を、モニター視聴で高山でも一講座として開催すれば、公開講座の経費が削減できます。また、講師には事前に『ひだご坊』誌へ寄稿いただくことで紙面も充実し、併せて開催案内を掲載すれば、岐阜にとってもいい広報になるでしょう。

「何をするか」についてはズバリ「岐阜でない(できない)こと」、つまり「高山でしかできないこと」を考えてみてはどうでしょうか。10月からケーブルテレビで始まった「ごぼうチャンネル」はまさにそうですし、『ひだご坊』も地域にもれなく新聞折込するなど、他の地区では考えられないことでしょう。多額の経費がかかることは検討課題ですが、テレビやインターネットは興味のある人が見に行くのに対し、新聞折込は興味のない人にも目に触れる機会があり、費用対効果では計れない力があると思います。

他に既存の事業でいえば親鸞教室。推進員養成講座は教区(本山)事業ですが、高山は指定組でなく全ての組が自主的に行う独自の実施形態です。組教化事業の中核でもあり、地区重点施策の「帰敬式」と「同朋唱和」を共通カリキュラムとして組み入れ、「全集中！」(鬼滅の刃より)して取り

組めば、他の事業は必要ないとさえ思えます。

あと個人的に望むのは終活講座。葬儀の簡略化や仏壇じまい・墓じまい等、切実で身近な問題を入口として仏法に出あっていく。終活の一つとして法名を望む人もいますが、その不純?(身近)な動機(関心事)を利用(きっかけ)して帰敬式の願いにふれ、仏弟子の自覚と真宗門徒の生活がその身に証されれば、終活も「人生の終わりに向かう準備」でなく「残りのいのちを生きつづす人生の始まり」となるのではないのでしょうか。

さらに法名は「授かる」ものから「名のる」ものとして発想を転換し、受式者が自分の法名を考える。現代語訳付『同朋唱和勤行集』の中から選べば、勤行集の新たな活用となり、選んだ法名を住職と確かめ合えば、「事業と事業」「人と人」が「つながり」を持ち、有意義なものになると思います。

このたびの改編を、できなくなるピンチでなく、したいことができるチャンスととらえ、「らしさ」(独自性)と「つながり」(関連性)のある教化を一緒に考えていきましょう!

飛騨御坊真宗教化センター
企画会議座長 帰雲真智



★ご坊教化センターからのお知らせ★

「同朋唱和の願いを考える会」を開催(育成部会)

御遠忌法要の円成にとどまらず、別院・各寺院の報恩講の回復と各家庭のお内仏報恩講の勤行を僧俗ともに勤めていくことをめざして

御遠忌法要の同朋唱和の取り組みをセンター事業として引き継ぐ第一歩として、育成部会が主催し、高山一組及び益田組の二カ組において懇談会「同朋唱和の願いを考える会」が開催された。

高山一組(9月30日開催、参加8名)では、三木朋哉幹事より、「まだ御遠忌の感動が残っているが、御遠忌の取り組みとしての同朋唱和は、各ご門徒がお内仏報恩講を勤修していただくことを願いとしていた。そして、練習を含めて、果たして僧侶と門徒が“ともの同朋”として参加していたであろうか。同じ方向を向いて同じお聖教を、うまくなってもならなくても一緒に勤めることに意義がある」と問題提起されました。

参加者からは、「同朋といいながら、そのようになっていない現実がある」「コロナが収まれば、また『正信偈』を一緒に勤めていきたい」などの声が聞かれました。



一組開催風景

益田組(10月5日開催、参加6名)では、澤邊恵亮副幹事より、「同朋唱和といっても、実際にはお寺ごとの“読み癖”があるが、それが『正信偈』の如衆水入海一味のように、様々な声や癖がある読み方でも、一緒にお勤めすることにより一つの味わいになっているように感じる。同朋唱和は、御遠忌法要で完結するものではない」とお話しされました。

参加者の中には、御遠忌法要に実際参拝された20代のご門徒もおられました。また、「組内でも取り組みの熱量に開きがある。ご門徒は所属寺に関わらず、地区ごとなど参加しやすい最寄り寺院で練習できたらいい」という意見もありました。(駐在教導 橋)

Youtubeチャンネル「ひだご坊」を開設(青少幼年部会)

「ごぼうチャンネル」をYouTubeで放映開始 —11月1日より放送開始—

このたび、高山別院から飛騨一円の方々のみならず、広く多くの方々へ真宗の教えをお届けするため、YouTubeチャンネル「ひだご坊」を11月から開設いたします。

「ごぼうチャンネル!」を視聴できない地域の方には、是非この機会にご視聴ください(ご案内ください)。

現時点では、青少幼年部会で製作し高山市のローカルテレビ「Hit net TV!」で放送された「ごぼうチャンネル!」のみを公開してまいります。今後随時、内容を充実していくことも検討してまいります。



子どもに向けてのセンター長法話



『仏典童話』けしの種

ご坊センター室に看板が掛けられました

既報のとおり、センターの始動に合わせて、教務支所及び別院事務所の合体と会館2階にセンター室が設置されましたが、このたび、センター室に看板が掛けられました。

センター室は椅子と机が新調され、広々としたスペースが確保されましたが、今後もセンター業務に必要なものを設置するなど、機能の充実を図ってまいります。



■宗祖の門徒が勤める報恩講②

宗祖の門徒になるとはあまり言わないのはなぜか。不思議に思うことがある。

六十有七ときいたり
浄土の往生とげたまう
そのとき靈瑞不思議にて
一切道俗帰敬しき (曇鸞和讃)

ここに帰敬という言葉がある。これは曇鸞和尚に帰敬したんだ。

本師曇鸞大師をば
梁の王子蕭王は
おわせしかたにつねにむき
鸞菩薩とぞ礼しける (曇鸞和讃)

どこに向かって礼しておられるのか。それは曇鸞大師である。

承久の太上法皇は
本師源空を帰敬しき
釈門儒林みなともに
ひとしく真宗に悟入せり (源空和讃)

ここで親鸞聖人が「帰敬」と書かれたのは、仏様にではなくて師匠（祖師）に対してのこと。我らの師匠は宗祖親鸞聖人。ですから親鸞聖人の門徒

になるということが、帰敬式を受けることの大事なポイント。

如来には「一心帰命」、諸師には「帰敬」。弥陀に帰命し、釈迦諸仏（諸師）に帰敬するのである。当然、釈尊の弟子となる名のりではあるが、同時に真宗門徒にとっては宗祖親鸞聖人のお弟子になるんだという点に重点を置いての帰敬である。この宗祖親鸞聖人への帰敬が確かなものとなって「報恩講」につながっていく。ここが抜けている。

ですから、本山での帰敬式は宗祖親鸞聖人の御前で、御影堂で執行される。各家庭のお内仏の脇掛は、近年、十字・九字の名号が多いが、一昔前までは宗祖と蓮師が多かった。先ず「帰敬」した師を通して、弥陀に「帰命」することが明確に表されていた。今日、お内仏に祖師への帰敬の証がなくなっている。だから家庭でのお内仏報恩講も消滅していったのではないか。

報恩講参詣は、法名の〔名〕が〔実〕を結ぶひとつの形なんだ。私の法名の名が実を結ぶということなんだ。

■帰敬式を受式し、本山御正忌報恩講に参詣を
高山別院では毎年11月3日（報恩講最終日）

に帰敬式を執行する。事前の研修を経て受式するのだが、受式後のフォローがされていない。各寺の住職にまかせることになるのだが、どうなっているのか不明である。ここに大きな課題がある。

近年まで飛驒人にとって本山の報恩講はなじみが薄かった。昭和9年に高山線が開通するまで上山は思うように行かなかった。そのため、毎年11月25日～28日の間、別院では報恩講とは称さず「お七昼夜」を執行してきた。そのため、本山報恩講参詣は住職も門徒も考えの中になかった。

1999年、別院の従来の報恩講を4月から11月1日～3日に変更し、11月のお七昼夜を止めた。以来、本山の報恩講に参詣できる機会が住職にも門徒にも与えられるようになった。それから20年余になる。いよいよ本格的に本山報恩講を身近にするために、帰敬式受式者を対象に「本山報恩講団参詣計画」を作らなければならない。

帰敬式のための事前研修に対し、事後教化として、「御真影」の前で改めて真宗門徒の自覚を促す機会を用意すべきだと考える。

<続く>



飛驒御坊「祠堂経」

秋彼岸 2020. 10. 19 以降の 中間報告①

前回ご紹介いたしました「飛驒御坊祠堂経」の現況についてお知らせいたします。秋彼岸の9月19日から始められ、10月27日までの間で祠堂経の申し込みは64件です。祠堂経法名軸の内容を拝見すると、連れ合いの故人一名もありますが、一人が幾人もの法名を出しておられる場合が多いです。例えば故人となった両親や兄弟・姉妹の法名を一緒に出される具合です。祠堂経につかれる方々の心情を察するに、次のことが見えます。

- ※ 法名と俗名のほかに「施主名」が記載されますが、これには故人と自分との関わりが一体感があります。
- ※ 施主名が法名と一緒に記載されることで、故人への主体的な愛情表現ができる達成感があります。
- ※ 一年間、法名軸が余間にかけてられ、途切れることなく勤行がされ、一年間という区切りがあることで、故人との絆が緊張感をもって「ご坊さま」に通じています。
- ※ みんなの「ご坊さま」という解放感によって、多くのお参りの方々の仏縁となり、個人を超えた広がり的心情となってきます。
- ※ 一年間の祠堂経の志が三千元という気軽さがあります。



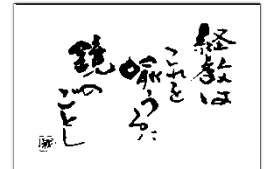
『私を照らすひかりの言葉』

東京教区 酒井義一著 価格：800円

経教はこれを諭うるに鏡のごとし

自分のことは自分が一番よく知っている、と人は言います。しかし、それは本当でしょうか。実は人類始まって以来今日まで、自分の顔すら自分の目で直接見たことがないのです。なぜなら目は外を見るためについているからです。自分の本当のすがたを知らないもの、人間。仏さまは、そのような闇を抱える私たちを、絶えず照らし続けています。まるで鏡のように。

—本文より—



—永代経など、お寺からの記念品におすすめです—

飛驒御坊真宗教化センター・高山別院 2020年11月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	日		別 報恩講準備	
2	月		別 18:00 真宗公開講座（2回目）	本堂
3	火		別 報恩講	本堂
4	水			
5	木	14:00	教 査察委員講習会（リモート）	研修室
6	金			
7	土			
8	日			
9	月	14:30	別 組門徒会研修会 PT	センター室
10	火			
11	水	7:00 13:00	別 半日華 別 大谷婦人会報恩講 法話：輪番	本堂
12	木			
13	金	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	土			
15	日			
16	月			
17	火	15:00	別 企画会議	研修室
18	水			
19	木			
20	金	10:00	本 門首継承式	真宗本廟
21	土		本 御正忌報恩講（28日まで）	真宗本廟
22	日			
23	月			
24	火	19:00 19:00	教 教化研究所 別 寺内報恩講	研修室 御坊会館
25	水			
26	木	7:00	別 半日華	
27	金	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	土	13:00	別 親鸞聖人ご命日 法話：三島 大遵氏（真蓮寺住職）	本堂
29	日			
30	月			

12月

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
3	木	13:00	別 三日のご坊 定例：門端 讓氏	本堂
11	金	13:00	別 大谷婦人会定例 法話：輪番	御坊会館
13	日	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
23	水	19:00	教 教化研究所	研修室
27	金	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	土	13:00	別 親鸞聖人ご命日	本堂

【御礼】 莊白川組 明善寺住職 大泉信吾さんから、お仏飯用のお米をいただきました。ありがとうございました。 高山別院